

学校運営協議会議事録

校名	府立淀商業高等学校
校長名	村上 憲文

開催日時	令和6年2月22日(水) 16:00 ~ 17:00
開催場所	会議室
出席者(委員)	委員 3名参加
出席者(学校)	村上 憲文 校長、香西 朝夫 事務長、坂脇 康文 教頭
傍聴者	なし
協議資料	次第、令和5年度学校経営計画及び学校評価、学校教育自己診断
備考	

議題等(次第順)
<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校経営計画及び学校評価について (2) スクールポリシーについて (3) 近況報告、今後の予定について (4) その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)
<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の評価及び計画についてはPDCAサイクルを踏まえて考え、評価をするとともに課題を検証し、計画案に繋げていく必要がある。前年度の目標を引き継ぐ重点目標もあるし、学校の教育目標や今日提案されているスクールポリシーによって、方向性を変えた重点目標が出てきても良い。 ・授業見学を行った教職員の数値が昨年の55.0%から57.2%に数値が上昇傾向にあるものの、目標数値には到達していないし増加率も低い。これはどの学校にも当てはまることだが、授業以外の業務量が増え、どうしても空き時間に処理するので本来の教職員の自己研修の時間が取り辛くなっているのが、現状のようである。外部からの人材を積極的に活用し、教職員の負担軽減を推し進めていく必要性を感じる。 ・現代では商業教育において、子どもたちの達成度を何で判断していくのか。一昔前では「検定何級合格」というのが価値観であったが今は課題解決能力がその指標として挙げられている。アントレプレナーシップ教育や淀翔モールでの学びは達成感や充実感、仲間と協働する喜びを味わうことができている。 ・商業科、福祉ボランティア科、大阪府内にはさまざまな専門学科を要する学校が多数あるがこれからの専門学科の教育は普通教科と連携することによって基礎学力を身につけることが肝要である。問題の解き方を技術的・機械的に教えるのではなく問題を読んでその意味を理解したうえで自分の身に備わった知識をフル活用し課題の解決に向かうという教育がこれからの専門教育は問われていく。 ・検定の取得率が減少してきているが、生徒への動機づけとして、「この検定はこの仕事に使える」という明確なビジョンをはっきりと伝え、学ぶ目的を生徒が理解したうえで課題解決型の学習を取り入れていくことが重要である。検定と今の取組みがうまくかみ合えば、淀商の特色がいかされるのではないかと。 ・福祉ボランティア科においてはこのコロナ禍の影響で昨年は志願割れとなったが、これまで取り組んできた科の良さが発揮しにくい状況になってきている。これまでに行ってきたと思うが、両科の良さを発信していくことが、学校の存続と発展に繋がっていくのではないかと。 ・体育祭・文化祭は生徒会が中心となり非常に活気のある良い行事であった。生徒全員に協力する喜びと一つのことを成し遂げた達成感を持つという目的があると思うのだが、2つの行事が近いこともあって、楽しかったことを大前提として、一つのことになかなか集中しづらい状況もあったと子どもから聞いた。 (2)・スクールポリシーのグラデュエーションポリシー、カリキュラムポリシーについて、第2回学校運営協議会で拝見したが、学校の目標や指標になるので、常に教育活動の念頭に置き計画を立てていただきたい。 (3)特に意見等はなかった。 (4)次年度の回開催日については未定。

次回の会議日程	
日時	令和6年6月予定
会場	未定